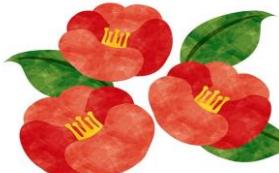


甲佐町オレンジ通信

令和 7 年 12 月 甲佐町地域包括支援センター

第 7 号(通巻第 107 号)



認知症の方を中心に、一緒に
コミュニケーションを作りましょう。

阿蘇の草千里では、来年の干支である馬たちが放牧され気持ちよさそうにススキの中で仲間たちとくつろいでいます。

大きな阿蘇から眺めると外輪山の裾野がそのまま上益城郡につながっており、悠久の歴史を感じます。

今回は、「楽になる認知症ケアのコツ」(著者は山口晴保氏)についてご紹介します。この改訂版の本の中には、認知症基本法の考え方方に合わせて認知症の方が「生きがいを持って社会に参加する」、「認知症の方が自分らしく活躍できる」というテーマがたくさんあります。

認知症の方たちへの考え方も大きく変わってきました。

江戸時代には自宅にオリがあり、その中で暮らす方々もいました。昭和の時代にも、認知症の方はしばっておけば良いという考え方当たる前のようにあり、実際にしばられる人も見聞きしておりました。これを※オールドカルチャーと呼びます。

※ オールドカルチャーとは、認知症の方の行動を「問題」として解決策を求めるアプローチであり、本人のニーズを理解せず行動を抑制することで問題を解決しようするもの。

この令和の時代には、認知症の方が自主的に発言し、「認知症大使」と呼ばれる方たちが、講演会などを地域で開催しています。中には、若くして認知症になり、落ち込み、一時期うつになられたものの、周りの支えで立ち上がった方もいます。

※高知家希望大使の山中しのぶさんは、高知で自分が理想とするデイサービスを立ち上げ、「ひとりじゃないき」という本を出したタフで明るい認知症のご本人です。認知症と診断された当初は、41歳、シングルマザーで子どもはまだ小学生でした。認知症になっても家族や仲間がいれば絶望の淵から立ち上がることができたといいます。

全国には認知症の方が活躍するカフェなどもあります。甲佐町でも素敵な取り組みが増えることを楽しみにしています。

※ 高知県では、認知症の理解を深めるために「高知家希望大使」を設置し、認知症の当事者が活動を通して地域社会に貢献されています。

※ 熊本県では、「くまもとオレンジ大使(認知症本人大使)」の3人の方が認知症の人々の生活や症状を伝える活動をされています。

「認知症地域カフェ 甲佐ごちゃまぜ食堂 in ろくじ館」

～ ご案内 ～

令和8年1月6日(火曜日) 正午から午後2時30分まで、ろくじ館にて介護のお悩み相談を兼ねて地域食堂を開催します。

当日はフードロス対策も兼ねてダゴ汁を無料配布します。是非、ご参加ください。
これは、「甲佐町チームオレンジ準備会」の企画です。

甲佐町地域包括支援センターでは、6月から月に1回、全10回にわたって認知症に関する情報「甲佐町オレンジ通信」を発行します。



お問い合わせ先
甲佐町地域包括支援センター
(甲佐町役場 福祉課)
TEL 234-1114